

持続可能な社会と建築をつくるために

# OMreport



ふんだんに使われた千葉県産材とOMソーラーの温もりに包まれた建物内観。



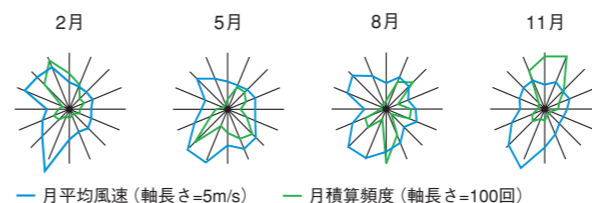
「自分が入りたいと思える施設をつくりたい」との想いでつくられた「夢楽の園」。

## 千葉県千葉市 「グループホーム 夢楽の園」

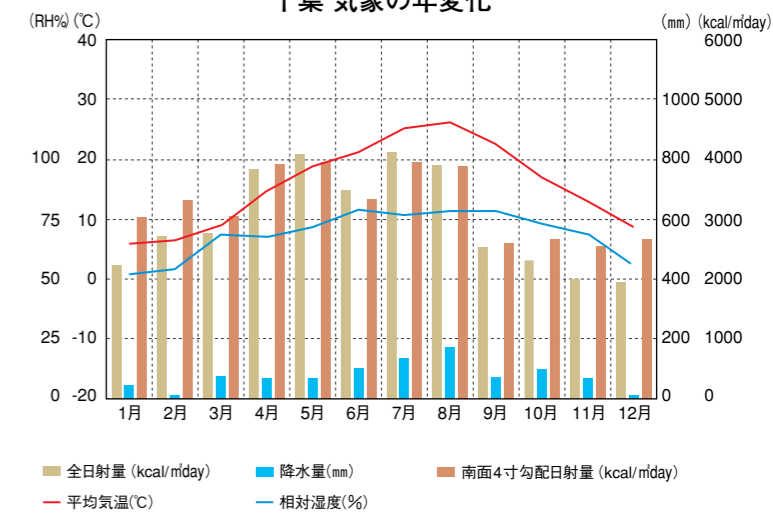
東京都心へ約40kmの千葉市は、千葉県のほぼ中央に位置する県庁所在地。中央区、花見川区、稲毛区、若葉区、緑区、美浜区の6区から構成される政令指定都市です。  
臨海部と各河川下流域に広がる平地と、周辺部の台地から構成される千葉市は、温暖な気候で年平均気温は16℃前後、年間降水量は1,200mm前後。冬暖かく、夏も暑い日がそれほど多くありません。都心部へのアクセスが良い一方、若葉区や緑区の周辺部には自然が多く残される住みやすい土地であることから、郊外や臨海部を中心に大規模な住宅団地が広がり、近年では、定年後のいなか暮らしやセカンドハウス建設の拠点としても人気が高まっています。



### 千葉 風配図



### 千葉 気象の年変化



### 千葉 月平均気温

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
6.0	6.4	9.1	14.8	19.0	21.7	25.6	26.2	22.8	17.1	13.0	8.7

## バリアフリーは段差だけでなく温度差がないことも大事。



家庭的な雰囲気の居間で和やかに寛ぐ入居者たち。

千葉県千葉市緑区にある「夢楽(ゆうらく)の園」は、認知症のため生活介助が必要となった高齢者のためのグループホームです。9名を1ユニットとした床面積約200㎡の建物は、福祉施設には珍しく、千葉県産の無垢の杉材をふんだんに使った、在来木造で建てられています。

この「夢楽の園」の誕生には、ある一人の熱い想いが柱となっていました。その人物は、(株)松村工務店の専務である松村官治氏です。松村工務店は、大正13年に大工である松村千巻氏が東京で創業し、その後千葉へ移転。現在は二代目となる松村恒男氏が社長を務めています。父の跡を継ぎ大工として家づくりの最前線に立つ兄の恒男氏に代わり、経営を任されているのが弟の官治氏です。

官治氏は工務店の運営に力を注ぎ、家づくりを通じて様々なネットワークを構築していく中で、老人ホームなどいくつかの福祉施設を見学する機会を得ます。そして、その時に胸をよぎった「もし自分だったら、人生の幕引きをこういう場所で過ごすことができるだろうか」という想いを、拭い去ることができませんでした。

「住まい手の快適性を追求した家づくり」に携わってきた官治氏にとって、目にした施設はどれも、今まで社会のために貢献してきた高齢者が、最後に過ごす場所として納得のいくものではありませんでした。そしてその想いはいつか、「自分が入りたいと思える施設をつくりたい」という夢につながっていったのです。

しかし建築は専門としても、介護福祉についてはほとんど知識を持たなかった官治氏は、まずは自らが介護ヘルパーの資格を取得するところから始めます。介護についての知識を得るとともに、実習により介護する側とされる側両方の立場を体験することで、より理解を深めノウハウを積み重ねていきます。そして次の段階として、夢の実現化に向けグループホームを運営するた



太陽の日差しが降り注ぐ南側のデッキで日向ぼっこを楽しむ。

めの会社、(有)オフィス・KPQを立ち上げたのです。こうして2005年11月、松村工務店の向かいの土地にグループホーム「夢楽の園」がオープンします。千葉県産材を使った在来木造の建物は、松村工務店が以前から行ってきた『ちばの山を愛する家造りネット』での取り組みを生かしたもので、高齢者の人たちはほとんどが木の家で生



ホーム名が書かれた立ち木を回るようにスロープが玄関へと続く。

活されてきていることから「木造の方が落ち着いて住んでいただけるのではないか」との配慮から。床も天井も家具も千葉県産の杉の無垢材がふんだんに使われ、浴槽には檜材を使ったお風呂を採用しています。さらには柱の間に無垢板を落とし込むという板倉造りの工法を採用し、強度・調湿性・断熱性を確保しました。

また、「頭寒足熱で太陽の熱による穏やかな温もりがお年寄りに合っているし、新鮮な空気を取り入れによる換気効果が期待できる」と、OMソーラーシステムを導入。「バリアフリーという、となく段差のことが問題にされますけれども、段差だけでなく温度差がないのも大切なこと」と官治氏。OMソーラーによる全室床暖房と換気効果が生み出す穏やかでクリーンな室内環境が、お年寄りには最適なのだといい、さらには床暖房である



昔ながらのヒノキの浴槽は入居者に大好評。



住む人の快適性を考え無垢の杉板を床材として使用。

ことから、室内は素足や靴下で過ごすことができ、スリッパの使用による転倒事故を防止する一助にもなっています。

### 「安心して任せられる」というご家族の言葉がいちばん嬉しかった。

福祉の立場からではなく、住宅建築専門の立場での構想から誕生したグループホーム「夢楽の園」。高齢者の第二の家庭を目指し、太陽の温もりを伝えるOMソーラーと、慣れ親しんできた地元で育った木を使い、施設というよりも、家庭に近づいた新しいスタイルを提案しています。

効率という物差しで計れば、こうした施設で床に無垢の杉材を使用するのは冒険なのかもしれません。しかし「高齢者に温もりのある環境を」との想いから、ここではあえて床材をはじめとした自然素材を採用しています。



(有)オフィス・KPQ取締役 松村 官治氏

「たとえばリノリウムのような素材を使えば、掃除は簡単です。正直、最初は木だと匂いが染み込むかな、と躊躇したのも事実です。でも住む人のことを考えたら、どうしても木を使いたかった。それでスタッフに相談したら、『大丈夫です。木でやって下さい』と背中を押してもらえたので、踏み切ることができました」と官治氏は振り返ります。

異業種である福祉の世界に飛び込んで、いくつもの壁に立ち向かいながら、「自分が入りたいと思える施設になっているだろうか」と常に自問自答しながら進んできた官治氏。建設にあたっては人一倍大きな理想があり、研究を重ねてきたとはいえ、「まだまだ満足のものではない」といいます。しかしその一方で、本来の専門分野である建築に関する長年の経験と技術を生かし、「住まい手が健康で安心して暮らせる家づくり」の想いを投入したという自負もあります。

そしてそのことが、完成見学会の際、「こうい



それぞれの居室にはトイレ・洗面所が完備。

ころならぜひ親を入居させたい」というご家族の声となり、また「こういうところで働きたい」と応募してくるスタッフもいるなど、建物に対する反響として返ってきたことに、予期せぬ驚きを感じたと言います。

「介護はどういうサービスをするかといったソフトの面が重要視されるのだと思っていましたので、建物のようなハードについてはそれほど大きなことだとは思っていませんでした。ただ、そこに住む人の居住性や、もし自分だったら、ということを考えながらつくったら、こういう建物になっただけのこと。ですからご家族やスタッフの反響の大きさは意外でしたし、この建物をつくって本当に良かったなと思います。」

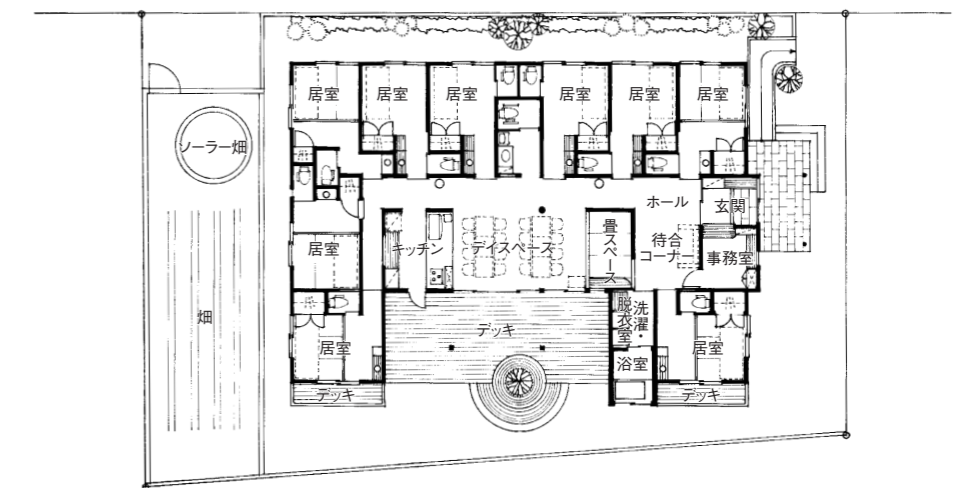
オープンして1年が過ぎ、周辺の住民にも暖かく見守られながら、入居者もスタッフも笑顔の絶えない穏やかな毎日が続いています。朝晩は必ず挨拶のために顔を出し、時にはスタッフとして介護にも就くという官治氏は、「まだまだ満足のものではない」と自分を戒めながら、今もなお理想に向かって走り続けています。



いろいろな物づくりの楽しさをみんなで体験。



OMソーラーシステムを利用した温室「ソーラー畑」も併設。写真※



平面図 1/300

グループホーム 夢楽の園  
名称/グループホーム 夢楽(ゆうらく)の園 所在地/千葉県千葉市緑区誉田町 事業主/(有)オフィス・KPQ 主要用途/福祉施設  
構造規模/木造平屋建て(板倉造り) 設計・施工/(株)松村工務店 竣工/2005年10月 延床面積/199.92㎡

写真/上田明 写真※ 写真提供:OMソーラー協会